

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD



よいことのために手をとりにあおう

第1718回例会 令和8年2月5日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。今日はロータリーの拡大の中の質について米山さんがどう思っていたり、どう行動したりしたかというお話をします。

<質について>

米山は、ロータリーの会員の質について、厳しい考えを持っていた。ロータリーが国際性のあるものであることから、最低でも英語が出来ることが条件であった。シカゴの幹部が日本のロータリアンはどの程度英語ができるかと質問したとき、すべてと胸をはって答えたのもむべなるかなである。米山は、訳書『ロータリーの創設者 ポール・ハリス』の序で、「クラブの会員は悉く原書を読み、英語を解する人のみである」といっている。

そして、米山の属する東京クラブでは、会員の入会については、高いハードルが要求されると同時に、当初のころは、米山の首を縦に振らないと入会がかなわなかったという。

米山は、誰とでも付き合うが、駄目だと思ふと徹底している面があったようである。これは米山にへつらうとかの意味ではないし、性格が合わなければということでもない。たとえば土屋元作（つちや もとさく）がある。この人は、自身の信念を曲げず、誰でもどのような場面でも、歯に衣着せず直言するようであった。おそらく、多くから煙たがられていたであろう。米山は、この土屋とは、明治26年5月シカゴの万国博覧会でともに働いて以来の付き合いである。この土屋とは随分馬があった。土屋は大正11年6月、東京クラブに入っている（大正12年3月退会）。おそらく、米山の推薦であったろう。その後、大正13年8月1日、大阪ロータリークラブに入った。米山が昭和5年10月、ガバナーとしてクラブ訪問のため、満州、朝鮮に旅行した。これには、土屋も同行している。米山が同行を求めたことである。その翌年3月、台湾の台北クラブの設立のときも、同行はしなかったが、土屋に同行を求めている。このように性格が合わなければということではない。

ただ、質のことをいうのであれば、東京クラブは、昭和6年のころには、会員数が150名程度であった。入会の希望が多く、厳選しないと、とても対応しきれなかった（昭和6年5月23日、



横浜大会で東京クラブ発言)。このようなところでは、質が高くなるのは当然でもある。

また、他のクラブでも、質ということを重要視して運営されていた。昭和2年10月の第2回の日本ロータリー連合懇親会では、会員の選考を一層厳格にするという決議がなされたほどである。これは、単に手続きを厳格にということではなく、内容の面をいっていることであろう。

米山は、日本のロータリーの質の高いことは、自他ともに認めるところだとする。その上で、ロータリーの質は維持されるべきものであるとの考えであった。

【幹事報告】

山田 利明

【理事役員会報告】

プログラムについて

2月	5	木	通常例会	
	12	木	休会	理事役員会
	19	木	IMへ振替	2月21日(土)
	26	木	親睦夜間例会	養浩亭
3月	5	木	通常例会	理事役員会
	12	木	通常例会(会員卓話)	
	19	木	休会	
	26	木	親睦夜間例会	



2月21日の土曜日は第4グループのIMになっております。場所は本庄市児玉文化会館セルディーになります。

乗り合わせて行きたいと思ひます。会長は私の家に13時20分に来てもらい、途中1名を乗せて行きたいと思ひます。

よろしくお願ひします。





四つのテスト

小林 悟会員

今日の午前中、薬剤師という関係で、三沢小学校に行ってきました。何をやったかという、空気環境の検査、明かりが暗くないか等の検査をすしたのですが、他の学校はエアコンだけなのですが、三沢小学校は寒いので、まだストーブを焚いています。ストーブを焚くと、二酸化窒素や二酸化炭素が多くなりますので、検査をして、子供達が安全に学校生活を送れるかどうか検査しました。結果はストーブとかも炊いているので、基準をオーバーする事ばかりでした。小さい子供達なので、きちんと換気をして欲しいなどアドバイスをしてきました。

三沢小学校は人も少なく、あと1年で皆野小学校に統合します。インフルエンザがまた流行っていて、学級閉鎖も秩父、皆野、長瀬でもあるようです。その辺の注意もしてきました。B型が流行っていますので、皆さんも気をつけていただきたいと思います。

ロータリーの友の音読



ロータリーの友2月号

SPEECH



医学博士(筑波大学名誉教授)、精神科医、批評家
齋藤 環

1961年若手県生まれ。筑波大学医学研究科博士課程修了。病院勤務を経て、2013年同大学医学医療系保健医療学域社会精神保健学分野教授に着任。現在は同大学名誉教授(公社)青少年健康センター参与、オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン共同代表、専門は思春期・青年期の精神病理学。著書に『社会的ひきこもり』『世界が土曜の夜の夢など』(角川助産学芸賞)、『オープンダイアログとは何か』(著+訳)他多数。

SPEECH

2025年8月5日 第2650地区・奈良東R C 創立35周年記念講演要旨

齋藤 環 医学博士(筑波大学名誉教授)、精神科医、批評家
Tamaki Saito

これからの時代に求められる 不登校支援について

不登校は、かつての「ずる休み」「怠け」といった見方から大きく変わり、今では問題行動ではないと明言されています。しかし現実には不登校は増え続け、背景には教師の言動や学校制度の在り方、家庭や社会の状況などが複雑に絡んでいます。長期化すれば心身の不調を招いたり、ひきこもりへと移行するケースも少なくありません。指導的な対応では解決が難しく、社会全体の理解と、支援の在り方が問われています。